港湾振興便り

2020. 12

第163号

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

目　　次

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

1　ポートエッセイ　　― 冬の新潟港の取り組み ―

～　日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　中原　八一　～

2　トピック

●2050年の北海道港湾を考える検討会を開催しました

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

●首都直下地震に備えて　～防災訓練を実施しました！～

（関東地方整備局　港湾空港部）

●金沢港開港50周年記念式典が開催されました

（北陸地方整備局　金沢港湾・空港整備事務所）

●「みなとオアシス敦賀」の追加登録証交付を行いました

（北陸地方整備局　敦賀港湾事務所）

●御前崎港に帆船みらいへ寄港

（御前崎市　建設経済部）

●三河港（蒲郡地区）に「にっぽん丸」寄港

（中部地方整備局　三河港湾事務所）

●舞鶴高専生と若手技術者が車座で意見を交換

（近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所）

●整備中の避難港で地域振興への支援として釣り大会を開催

（四国地方整備局　高知港湾・空港整備事務所）

3　お知らせ

◇イベント名：X'masマーケット2020 in アクアマリンパーク～家族で楽しむクリスマス～

＊：

１　ポートエッセイ　―　冬の新潟港の取り組み　―

～　日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　中原　八一　～

＊：

今年も、冬の使者である純白の「白鳥」と、国の天然記念物「オオヒシクイ」が新潟市の市街地周辺の「潟」に多数飛来して冬の訪れを告げている。

昼間は、周辺の水田で餌をついばむ姿や、餌場に向かって編隊を組んで飛行する姿は、この時期の風物詩として、私たちの心を和ませてくれる風景となっている。

一方、雪国に暮らす私たちにとって、日常生活や経済活動に影響を受ける季節であり、港湾従事者にとっても、降雪や海上の時化などで、船舶スケジュールの遅延や除雪によるヤードの閉鎖、ゲートオープンの遅延など、荷役作業への影響が心配される。その上に今年は新型コロナウイルスによる負担が加わることになる。

降雪への対応として、降雪地にある多くの港湾では、重機による機械除雪が行われているが、この機械除雪は早朝のドカ雪や断続的な降雪には、なかなか対応しきれない面があるとともに、除雪作業に非常に多くの労力と時間を費やすことになる。

今年の１０月に東京で開催した「新潟港セミナー２０２０」において、新潟コンテナターミナルを運営する「株式会社新潟国際貿易ターミナル」から紹介していただいた、機械除雪に代わる融雪による降雪対策について、船社、荷主、物流業者などに広く知っていただきたく、改めてご紹介したい。

今年、新潟東港コンテナヤードにおいて完成したのは、降雪感知器を利用して降雪に対し適切に対応する、雪国の道路ではおなじみの「消雪パイプ」という地下水を利用した散水による融雪方法である。

地下水は冬季でも１３～１４℃と一定の温度を保っていることから、雪を融かすには好都合であり、除雪車による除雪と違い、雪が解けて無くなることから、雪置き場の確保の心配をしなくてもよいなど、点検以外は殆ど労力を要せず、職員の負担も大幅に減らすことが出来るとのことである。

ただし、新潟市では一部の地域を除いては、地盤沈下防止のため地下水の取水制限があることから、すべてを地下水で賄うことが出来ず、これを補う方法として「海水」に着目したのが画期的な点だ。これにより、地盤沈下の心配をせず、冬季のスムーズな荷役作業が可能となった。

本州日本海側で最大のコンテナ港湾である新潟港を有する本市では、新潟東港から市内各地域を結ぶ新潟中央環状道路の整備が進むほか、首都圏に直結する高速道路など優れた交通インフラを有しており、混雑が続く京浜港の代替港として十分に機能できる能力を持っている。

さらに、太平洋側に偏りすぎている物流を、日本海側に位置する新潟港に振り替えていくことは、太平洋側で災害が発生してしまった時に備えることにもなり、国土強靭化にもつながる。

雪という日本海側港湾の弱点を克服し、太平洋側港湾と両輪で我が国における物流を安定的に担っていくことで、日本経済のさらなる成長とともに、地域の活性化の実現につなげていかなければならない。

＊：

2 トピック

＊：

●2050年の北海道港湾を考える検討会を開催しました

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

令和2年11月10日（火）、北海道開発局は「第1回　北海道港湾における中長期施策に関する有識者検討会」を開催しました。北海道開発局では、技術革新など今後の大きな社会状況の変化を見据え、2050年における北海道港湾のあり方について検討しており、本検討会はその一環で開催したものです。

検討会では、観光やITなどの道内経済界から有識者を招き、これまでの港湾政策の延長線上ではなく、枠にとらわれない自由な発想で議論を行いました。

有識者からは、「北海道の食料生産機能は世界の食糧危機を救うポテンシャルがあり、それを物流面から支えるべき」、「北海道の寒さを武器に全国に先駆けた一大データセンターを構築できるが、膨大な電力エネルギーが必要であるため、その供給基地を港湾が担うべき」など、北海道の新しい産業のポテンシャルを港湾が引き上げる重要性が挙げられました。

また、「北極海航路を見据えると、シンガポールのようなハブ機能を北海道で担うことが効率的ではないか」、「北海道港湾はドローン技術により水面すれすれを飛ぶ水上トラックの発着拠点となるべきではないか」といった革新的で夢のある意見もありました。

さらに、観光分野では、「北海道の癒やしやアイヌ文化を売りにしたクルーズ周遊の人気が高まる」など、地域特性に寄り添った持続可能な観光に関する意見もありました。

北海道開発局では、この検討会での議論も踏まえつつ、北海道港湾の新しい可能性を拓くため、さらなる検討を続けていくこととしています。

有識者検討会の様子

意見を述べる大西氏
（鶴雅リゾート株式会社常務取締役）

意見を述べる入澤氏（エコモット株式会社代表取締役社長）

●首都直下地震に備えて　～防災訓練を実施しました！～

（関東地方整備局　港湾空港部）

１１月６日（金）、関東地方整備局では、首都直下地震などの大規模災害の発生に備え、防災訓練を実施しました。

港湾空港部では、川崎港の東扇島地区基幹的広域防災拠点にて訓練を行い、16機関・団体、約２８０人が参加しました。

首都圏において首都直下地震などの大規模災害が発生した場合、東扇島地区基幹的広域防災拠点は、陸路、海路、空路を活用した緊急支援物資の輸送拠点となると共に、警察・消防・自衛隊などの広域支援部隊の活動拠点となります。

今回の訓練では、荒川河川敷等で同時開催している河川・道路の訓練と連動した緊急支援物資の輸送訓練やヘリコプターによる非常参集訓練、車内に閉じ込められてしまった人の人命救出訓練等を実施しました。

また今年は感染症対策の訓練として、感染者の待機場所等として活用可能な陰圧機能を持った仮説ハウスの設置、感染者の輸送訓練を実施しました。

人命救出訓練の様子

感染者を輸送する訓練の様子

●金沢港開港50周年記念式典が開催されました

（北陸地方整備局　金沢港湾・空港整備事務所）

令和2年11月29日（日）に金沢港クルーズターミナルにて金沢港開港50周年記念式典（主催：石川県、共催：金沢港振興協会）が開催され、地元選出国会議員のほか、国土交通省から港湾局長をはじめ、北陸地方整備局長、次長、金沢港湾・空港整備事務所長が出席しました。

式典の様子

式典前には、記念イベントとして、地元町会の子供達による「みやのこし太鼓若翔」が披露されたほか、当日は来場者数が50万人に達成したことから、記念セレモニーも行われました。本式典では、これまで金沢港の振興発展に寄与されてきた団体・個人への感謝状の贈呈や金沢港開港50周年を契機として、金沢港のさらなる魅了を発信するため、金沢港シンボルマークが発表されました。また、金沢港の歴史をスライドショーで映し出し、開港から50年を振り返りました。

式典後には、記念講演「空を見上げよう～海と気象と金沢港～」（講師：石原良純氏）や、記念フォーラム「魅力が輝き交流が盛んな金沢港に～金沢港のこれからに期待すること～」（パネル討論）、その他音楽イベントが行われました。

来場者５０万人達成記念セレモニー

金沢港シンボルマーク発表

●「みなとオアシス敦賀」の追加登録証交付を行いました

（北陸地方整備局　敦賀港湾事務所）

「命」の大切さと「平和」の尊さを発信する「人道の港敦賀ムゼウム」のリニューアルに伴い、１１月５日(木)に「みなとオアシス敦賀」への追加登録証を敦賀市へ交付しました。

敦賀港は、1920年代にポーランド孤児、1940年代に「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。当時の建物を復元した資料館「人道の港敦賀ムゼウム」では、新たにシアターや、孤児・難民に関する新史料が加わり、敦賀港だからこそ伝えられる「命」と「平和」を後世に伝えます。

今後、北陸新幹線敦賀開業が予定されており、東京と敦賀が再び直結されます。今回、「みなとオアシス敦賀」の構成施設に追加登録された「人道の港敦賀ムゼウム」は周辺施設と連携し、金ケ崎エリアにおける交流人口の拡大と地域振興に寄与すると期待されます。

○「人道の港敦賀ムゼウム」に関する情報はこちら

敦賀市HP：https://www.city.tsuruga.lg.jp/about_city/cityhall-facility/shiyakusho_shisetsu/gaibushisetsu/tsuruga-museum.html

○「みなとオアシス敦賀」に関する情報はこちら

http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/minato-oasis/point/73/

「みなとオアシス敦賀」に追加登録された「人道の港敦賀ムゼウム」

「みなとオアシス敦賀」追加登録証交付の記念撮影
西川敦賀ムゼウム館長（左）、松葉敦賀市観光部長（中）、下田敦賀港湾事務所長（右）

●御前崎港に帆船みらいへ寄港

（御前崎市　建設経済部）

10月30日(金)～11月1日(日)、一般社団法人グローバル人材育成推進機構所属「帆船みらいへ」が御前崎港に寄港しました。寄港にあたっては、静岡県の重要港湾「田子の浦港」と「御前崎港」が連携して両港を船舶で結ぶ新たな航路・観光ルートに関する調査研究の一環で10月29日(木)に田子の浦港での試験運航後に10月30日(金)早朝、田子の浦港を出港し、同日夕刻御前崎港に寄港しました。

10月31日(土)午前中に一般公開(無料)、午後には1時間半の体験航海(有料)を行いました。11月1日には9時～15時30分までの環境学習プログラムが開催され、御前崎港から遠州灘への航海中に透明度及びマイクロプラスチックの環境に関する調査、その他にマストクライム、ロープワーク、操船体験等様々な体験プログラムが用意されており、参加者は貴重な体験ができたと感激していました。

令和3年、御前崎港は開港50周年を迎えるので、帆船みらいへをはじめ様々な船舶などを誘致し、港の賑わい創出に取り組んでいきます。

御前崎港内航行中のみらいへと富士山

●三河港（蒲郡地区）に「にっぽん丸」が寄港

（中部地方整備局　三河港湾事務所）

１１月２５日(水)にクルーズ船「にっぽん丸」が三河港蒲郡地区に９年ぶりに寄港しました。

にっぽん丸は全長166.7m、総トン数22,472トンのクルーズ船で、今回は横浜発着で寄港地は蒲郡という2泊3日の行程です。当日午前9時に入港し、オプションツアーでバスに乗車し香嵐渓へ紅葉狩りに向かう人、タクシーで市内観光をする人など、乗客はそれぞれの過ごし方で三河地方を楽しみました。

今回の寄港は、新型コロナウイルス感染症拡大後初めての三河港寄港になります。国土交通省が定めたルールにより、クルーズ船側、地元側それぞれにおいて感染防止対策などを実施しました。

クルーズ船側では、横浜出航前からPCR検査をはじめ各種の確認を行ったうえ、航海中や着岸後も検温や消毒等を実施。また、地元側は、見学者とクルーズ船利用者との間に柵を設け接触防止を図るなど、お互い十分な感染対策を実施しての対応となりました。

このように従来と違う対応もありましたが、出港時に市民と乗客お互いが手を振る中、手筒花火でのお見送りは、今までと変わらない光景でした。

三河港湾事務所は地元側の受入協議会の一員として、今後も安全・安心なクルーズ船受け入れに協力してまいります。

見学者検温の様子

手筒花火の放揚

お見送りの様子

出港の様子

●舞鶴高専生と若手技術者が車座で意見を交換

（近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所）

技術者の「たまご」である舞鶴工業高等専門学校の学生20名と若手技術者19名（京都港湾建設協会、近畿地方整備局舞鶴港湾事務所、京都府、舞鶴市）が京都舞鶴港国際ふ頭に集い、意見交換会と海上地盤改良工事（SCP）の現場見学会、ガントリークレーン搭乗体験会を令和2年11月11日に開催しました。

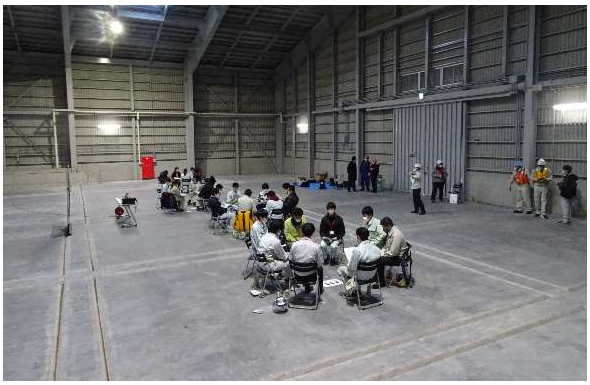
工学系の学校を卒業後、土木・建設系の職場を就職先に選択しない学生も多く、学校側、業界側もリクルートに苦慮する現状から、学生が年齢の近い若手技術者と意見交換を行うことにより、港湾事業や建設業に対する理解を深めると共に、疑問や不安等を解消し、自らの将来像を思い描いてもらうことを目的に開催しました。

意見交換会は、話しやすい環境、雰囲気を整えるため、①学生と若手技術者を少人数に班分けし車座で座談。②若手技術者が自己紹介カードを作成し、開始時にカードを本人が説明することで話の「つかみ」に活用。③時間が経つにつれ、話しやすい雰囲気になることから、開催時間を昨年の30分から60分に拡大する等、様々な工夫を取り入れました。

意見交換会では、会社を選んだ理由や、やりがい、休日の過ごし方など活発な意見交換が行われ、予定時間を過ぎても学生から質問があるなど、大盛況の中、学生、建設会社、官の三者にとって「三方良し」の取組みとなりました。

上記イベント終了後には、舞鶴港湾事務所と京都港湾建設協会の若手職員間で意見交換会を行いお互いの仕事などについて更に理解を深めていました。

今後は、学生の感想・意見を分析し、来年度も取り組みを進めて行く予定です。



【意見交換会の様子】

【舞鶴港湾事務所　柴田所長から学生に向けてエール】

【ガントリークレーン搭乗体験】

●整備中の避難港で地域振興への支援として釣り大会を開催

（四国地方整備局　高知港湾・空港整備事務所）

令和２年１１月８日（日）、室戸市観光協会主催の「第１回室津港釣り大会」が開催されました。高知県東南端の室戸岬に所在する室津港では、直轄事業により避難港整備事業を実施しています。

コロナ禍によりイベント中止が相次ぐ中、室戸市、日本釣振興会高知県支部、高知県釣具商組合等と国が地域振興への支援として企画。安全対策及び新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催され、当日は親子連れなど約40名が普段は立入禁止の作業ヤード岸壁で釣りを楽しみました。

防波堤整備が進み湾内静穏度が高まってきた室津港には、荒天時の船舶避難だけでなく、災害時の支援拠点や地域振興の核となることへの大きな期待が寄せられています。

室津港作業ヤード全景

コロダイやメンドリ、グレなど様々な釣果

作業ヤード岸壁からの釣りを楽しむ参加者

＊：

３　お知らせ（みなとのイベント情報）

＊：

◇イベント名：X'masマーケット2020 in アクアマリンパーク～家族で楽しむクリスマス～

【開催日時】 令和２年12月19日（土）～20日（日）

【場　　所】 いわき市「小名浜港アクアマリンパーク」

【概　　要】 みなとオアシスいわき小名浜の指定を受けている「アクアマリンパーク」において開催。そのシンボルとして海をテーマとした高さ8mのクリスマスツリーも現在設置中。（～12/27）

【問合せ先】 小名浜まちづくり市民会議（TEL.0246-52-1275）

【U　R　L】 ―

ツリーの様子 （点灯時）

＊：＊：＊： 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 ：＊：＊：＊＊：＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕１－３－４

TEL：03-5776-0630 FAX：03-5776-0631

e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：